

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400456		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームいぶき		
所在地	群馬県伊勢崎市境下湊名1473-3		
自己評価作成日	令和3年 6月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の情報を元に、その方が自分らしく生活できるよう、個別ケアに力を入れています また、日本の年間行事を取り入れ、季節を感じて頂けるよう取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新規に開設して6ヶ月が経過した事業所である。開設時に理念を管理者が考え作成し、職員と一緒に実践に向けて努力している様子がうかがえた。お元気な方が多く、書道や編み物、野菜作り、雑巾縫い等、趣味や長年培ってきたことを住まい替えをしても継続できる支援が為されている。又、6ヶ月の間に退去した利用者もいた。その利用者の退去時には他の利用者の発案で「卒業式」として送り出している。お名残り惜しさと共に、在宅時に近所の方の引っ越しや職場の退職を経験している利用者の社会性とアイデアを取り入れて、実施できたことはまさに理念の実践に繋げる内容であったと確認できた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本来会議で唱和を行うことになっている。現在はコロナ禍で開催できないため、タイムカードの前に掲示し各自読み上げている。	理念は管理者が作成し、職員と実践に向けて努力している。利用者のそれまでの生活歴から生まれたアイデアを取り入れ「卒業式」を行い、利用者を送り出した事例もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での開所だったため、地域の活動も自粛されていて交流ができていない。運営推進会議の資料は区長・民生委員には配布している。	開所時には挨拶に出向き、事業所のパンフレットを回覧板に挟んでもらい、地域に知らせることが出来た。隣地に系列のグループホームがあり、管理者から地域の特徴等情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来、推進会議・ボランティアの方々に参加して頂き、認知症の方の理解を深めていきたいが、コロナ禍で外部の方の訪問ができない、しかし、その中でも何が出来るのかを考え実践していく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する事となっているが、コロナ禍で不特定多数の方の集まりができないため、ホームの現状報告・活動報告・その回に取り上げられた資料等を郵送で届けている。	コロナ禍により書面開催となっている。理念の説明や年度の抱負、利用者状況や現状・活動報告を記載し、家族・民生委員・自治会長に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本社担当者が、日頃市町村担当者様へ出向き、密に報告、連絡、相談をし、協力体制を取っている。	事業所の開設時から担当課長が役所の担当者と連携を図っている。希望により、介護保険の認定調査の立ち会いや代行申請を担うこともできる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行っている。離苑する恐れのある利用者様が居るため玄関は施錠をしている。利用者様からの要望時は外気浴へお連れしている。	玄関は外部からは暗証番号で開錠できる電子錠である。共用空間との間の中扉は開錠している。現在は会議日の出勤者が資料で虐待・身体拘束に関する勉強会に参加している。	玄関の施錠は身体拘束に該当する項目であることを全職員が理解し、開錠できる工夫をしてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、全職員が集まる会議が行えなえないため、申し送り等で利用者様の日頃の生活の様子情報を、職員間で共有し注意深く見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が安心・安全に生活して頂けるように、制度の理解と活用の為、個人でも学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定の際は、利用者様、ご家族が理解し、納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開所半年経つがコロナ禍の為、面会とは制限している。その為、利用料支払い時や、電話等を活用し、希望や意向の確認を行っている。	本人の意見は全員が入居間もないため、こまめに様子を確認して何が適しているか試みている状況である。家族からはオンライン面会やライン登録者にレクレーション時の動画を送り、日常の状況を説明し、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、全職員が集まる会議が行えなえないため、日頃意見や、提案があるか声掛けしている。実践に繋がれそうな意見は行ってみる。	全員が集まる会議は開催できないので、管理者は職員との個別の「申し送りノート」を作り、様々な思いや要望を書いてもらえるように用意している。管理者で判断できない内容は担当課長に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように人事考課を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修が行えなくなっているため、オンライン等を活用している。入社時は、会社で用意されているスタートブックを活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修等で交流を図っている。今後、連絡協議会に加入予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がどういう事に困っているのか、日頃の生活の様子、行動を観察し、不安な事、こうして欲しいという事に耳を傾け、安心した生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が本人に対してどういう事に困っていたのか、不安な事はどう言う所なのかを傾聴しケアに活かしていき、信頼関係を築くため実践後の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がその時必要と思われる支援を努めている。 他のサービスも含めた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、利用者様の知恵や工夫、ノウハウを職員に伝えてもらうような雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆を大切にしながら、ホームで支えていけるよう、オンライン面会を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍で行っていないが、ご本人が大切にしてきた馴染みの方がいつでもホームに来苑していただけるような場所となるように努めたい。	家族や友人との面会が困難なため、本人の今できることを実践しており、書道を継続、お饅頭作りは餡子から炊いてもらい、カラオケは自ら選曲し歌ってもらう楽しみの支援をしている。野菜作り等得意分野を活かしてプランターで育てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性、相性などを理解し、落ち着いた生活ができるよう努めている。 また、孤立しがちな利用者がいる場合、介護者が介入しきっかけづくりを心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されていたご家族が利用料の支払いで来苑された際、相談された時傾聴し励ました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、意向を察したり、情報の生活歴から、話を引き出し聞き取るようにしている。 困難な場合においては、ご家族から情報収集し参考にしている。	意思表示や疎通が図れる利用者が多い。ケアマネージャーが週1回訪問しており、利用者との会話を通して希望等確認している。家族からは、オンライン面会や電話等で希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方に関わってきた方々から生活環境、暮らしぶり等沢山の情報を聞き取り、サービス提供をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、利用者様の状態が分かるよう、申し送り用紙を活用している。 また、細かな事、変化点は、ケア記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、コロナ禍で全職員参加の会議が行えないが、カンファレンス時に話し合いを設けている。(事前に聞き取っておく) 状態変化時は、随時介護計画の見直しをしている。	法人独自の様式を活用している。3か月毎のモニタリング・アセスメントを基に当日勤務の職員でサービス担当者会議を行い、介護計画の見直しを行っている。又、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記載し、全職員が情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望に添えるように柔軟な対応を取り、支援やサービスが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍で地域の行事には参加できない状況。コロナ終息後には利用者様と共に参加したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診がある。 受診・通院は家族対応となっているが、都合がつかない場合は、職員が対応する。	入居時に説明し入居前のかかりつけ医の継続か事業所の協力医を選択している。入居前のかかりつけ医を継続する場合、受診は家族に依頼している。歯科は希望で訪問歯科を受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来苑し、いつでも連絡が取れる体制になっている。 毎日バイタルチェックを行い、体調不良や普段と様子が違う事に気づいたら看護師に相談、状態によっては、医師への連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、その方の情報を文章化したものを提出している。 コロナ禍で面会ができないので病院関係者と電話で連絡を取り状況の聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際に、説明を行っている。 現在該当者はいないが、家族からの意向には沿える体制は整えている。	終末期に向けた方針があり、事前に勉強会を開催することや法人として24時間対応の訪問看護等とネットワークも構築しており、希望が出れば支援する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師より、必要に応じて指導・仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定火災訓練を実施。今後も継続して実施していく。またはハザードマップ上、浸水想定も見込まれる為、自主訓練にて実施予定。	自主訓練を一度行っている。ハザードマップを確認している。備蓄として3日分の水・食料品・排泄用品等を用意している。	非常事態に備え、自主訓練を重ねて、利用者と職員が火災や地震、水害等の避難方法を身に付けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、話すスピードには、利用者様によって変わる。 状況によっては自尊心を傷つけないよう小声で話すこともある。	入居はしたが家に帰りたいとの希望が出て、家族の理解もあり在宅に戻った経緯がある。 又、利用者にあった支援時の声掛けを行い、出来なくなってきたことへのショックを和らげる支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、欲しいものは出来る範囲で 応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするため、個別ケアを取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、女性であれば好みの洋服を着たり、爪磨きやお化粧をしている。 男性は、髭剃り、整髪をしている。 訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、旬の食材を取り入れたり、彩りを大事にし、利用者様の好みを聞き喜んで召し上がって頂けるよう努めている。食材の仕分け、食器拭きなど無理のないようお手伝いをして頂いている	利用者もエプロンと手袋をして台所に入り手伝っている。献立は利用者から何が食べたいか聞き、食材を職員が買い出しに出かけている。日本の文化食であるおはぎ作りや誕生会を楽しんでいる。	事前に献立を利用者の見やすいところに掲示して、食べる楽しみに繋げてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っていたたぎ、難しい所は職員が介助している。 義歯の方は、毎晩専用ケースに預かり、洗浄液に浸けている。 状況に応じ、訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	を減らすよう、排泄状況を調べるルーティン化している。 利用者様に適したパットを使用している。 夜間は、ポータブルトイレを利用し、快適な排泄支援になるようにしている。	昼夜トイレで排泄し自立しており、確認はさせてもらっている。時折汚染してしまうことへの自責の念等見受けられるときは声掛けに注意し、プライドを保てるように励ましている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に、野菜を多く取り入れるよう心掛けている。 テレビ体操を生活のパターンに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しむ工夫として、入浴剤を入れたり、冬至には、ゆず湯と季節を感じて頂けるようにしている。 シャワー浴の方には、足浴を取り入れている。	予定表があり、午前か午後で週2～3回、個別で見守りながら入浴してもらっている。手の届かない部分等を支援している。	予定表にあがっていない人にも入浴できることの声掛けを行い、希望が出た人には支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて安心して休息できるよう、職員も声掛けを行っている。 日差しが強い場合は、カーテンをしたり、冷暖房を適切に使用し、快適に過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬は、薬情報というファイルに薬事表を入れている。 薬の情報を周知徹底し内服の際は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じて頂けるような物づくりや、趣味を活かした手芸、編み物、食事作り、カラオケ等をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で外出支援は行えない。 外気浴のウッドデッキに出ている。	コロナ禍により外部に出かけることをひかえている。外気浴やウッドデッキを活用しプランターで野菜作りを行い、水遣り等で外部に出る機会に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理能力とご家族の希望を聞き、所持している方がいる。 買い物は、預り金から必要に応じて使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった場合、ご家族に電話で話している。 手紙も、ご本人の様子で書けるようなら、声掛けをしている。 年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔で住みよい環境を心掛けている。 季節の花々を生けたり、工作して飾り付けしたりしている。	コロナ対策や生活臭に対応し、換気はチェックシートに則り行っている。廊下を含めて大人の設えを考えながら、季節の花、お雛様等飾っている。テレビやカレンダー、利用者の書の作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様はリビングソファで過ごされていて、居室でテレビを見る方、趣味の書道や書き物を居室で行っている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるよう、馴染みの物や、好みの物など家族写真を飾ったりしている。	換気に気を配った居室には家や入居前の施設から持ち込んだ冷蔵庫・仏壇・衣装ケース・寝具等が置かれている。趣味の編物・かぎ編み、雑巾縫いの道具が用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が、出来ることを最大限活かせるために、手差し案内を心掛けている。 危険を伴わない様に安全に行えるよう、助言。見守りをしている。		